

## 上巻目次

訳者まえがき

日本語版への序文

英語版への序文

ハンガリー語版への序文

## 第1部 近代経済学の基礎——限界革命

第1章 1870年代主観的経済学の概観

第2章 価値の主観的説明

第3章 限界効用による均衡交換比率の決定

第4章 効用逓減の原理にもとづく需要関数の定式化

第5章 ゴッセンの第2法則

第6章 限界効用理論における費用法則

第7章 限界効用理論の批判

第8章 ワルラスとカッセルの一般均衡理論

第9章 限界生産力理論

第10章 資本財の量的測定

## 第2部 均衡価格理論の発展

第1章 主観的価値理論から合理的選択論へ

第2章 無差別曲線による需要曲線の導出

第3章 企業の利潤極大化行動と供給曲線

第4章 現代の一般均衡理論

第5章 純粋競争の効率性基準

## 第3部 近代経済学の市場理論

第1章 概 説

第2章 独占のもとでの価格決定

## 目 次

第3章 チェンバリンの独占的競争の理論

第4章 複占と市場均衡

第5章 独占的要素と効率性基準

第6章 トリフィンによる市場分類

第7章 近代経済学の独占論の批判

## 第4部 経済分析における時間要素の役割

第1章 経済分析と時間

第2章 調整の遅れと均衡化

第3章 ストックホルム学派の期間分析

## 第5部 計量経済学の応用

第1章 歴史的概観

第2章 貨幣の限界効用の測定

第3章 マクロ的生産関数の定式化

## 第6部 近代経済学における歴史と論理

第1章 序 論

第2章 ドイツ歴史学派の観点

第3章 社会-法制派の見解

第4章 歴史的アプローチと論理的アプローチにおける  
「大きな矛盾」

## 第7部 均衡理論への貨幣の導入

第1章 フィッシャーによる価格水準の決定

第2章 現金残高アプローチ

第3章 ヴィクセルの価格変動論

上巻注解